

岩手の部活動を支えるPTA

「Smile」を合言葉に

岩手県立久慈高等学校マンドリン部

保護者 村上伊利子

昨年10月、岩手県高等学校器楽コンクールにおいて7年連続で最優秀賞に輝き、8月に開催された全国高等学校総合文化祭岐阜大会に、器楽・管弦楽部門県代表として出場を果たしたマンドリン部。この総文祭を目標に1年以上をかけて取り組んだ曲。個々の技術を高め、全体の表現力を磨き、気持ちを一つにして本番に臨み、最高の演奏ができたと感じています。3名しかいない3年生は、「文化部のインターハイ」と呼ばれる総文祭に3年連続で出場し、全国の舞台を経験するという充実した部活動を送ることができました。

私たち保護者は、前向きに音楽と向き合う姿勢を陰ながら応援し続けてきました。一ファンとして、足を運べる演奏会を見守ることしかできませんでした。その度に部員一人ひとりの成長を肌で感じた感慨深い3年間でした。努力する過程で得た直面する課題を克服する粘り強さは、今後の糧になるはずです。

部員たちは、多くの方に支えられ、演奏できる環境にあることを自覚し、笑顔と感謝の気持ちを忘れずに活動してきました。常にサポートし、導いてくださったコーチの皆様、先生方、演奏の機会を与えてくださった地域や団体の皆様により感謝申し上げます。



▲高総文祭集合写真



▲定期演奏会にて

大洋に潮騒響かせ

仲間と翔けた3年間

岩手県立宮古水産高等学校太鼓部

保護者 久保 昌代

娘が高校に入学して選んだ部活は、姉が所属している太鼓部でした。入部して間もない頃、帰宅後に姉とクツションを太鼓代わりに練習していた事が思い出されます。

2年生に進級する頃、部活を辞めたいと言いました。自分がやると決めて始めたのだから最後までやりなさい、と辞めることに賛成はしませんでした。

その後、みんなと部活を頑張ってくれた結果、全国大会に出場することができました。一つの事をやり遂げる為の努力や粘り強い精神力、逃げ出したい・投げ出したい事を耐える忍耐力、仲間との絆、いろいろなものを得る事が出来たと思います。娘と共に頑張ってきた部員の皆さんも、部活動を通して得たものを、これからの人生に生かして歩んでいってほしいです。そして、最後に「いつも素晴らしい演奏をありがとう。」

保護者 佐々木百合子

高校に入ってから始めた太鼓。何も分からないところから、先生方や先輩、指導して下さった方々、そして何より部員全員の日々の練習の積み重ねによって大会に出場し、イベントなどで演奏することができました。

初めて演奏している姿を見た時は、緊張からなのか、少しぎこちなく感じたのですが、回を重ねていくうちに堂々として力強い演奏だと思えるようになりました。それはやはり、練習の成果が現れ自信につながったのだと思います。太鼓部の活動に携わって下さったすべての方々から感謝いたします。



▲全国高総文祭出場



▲宮古湾での演奏



▲宮古秋祭りでの演奏

保護者 須藤由加里

高校で太鼓部に入ると聞いた時は大丈夫かなと心配しましたが、先生方、先輩方、仲間を支えられて3年間頑張ったと思います。学業とアルバイト、そして3年次には部長として様々なことを両立させながら、たくさんの方の地域演奏や大会を頑張ってきたと思います。

部活動で学んだコミュニケーション能力や積極的に行動する力を、これからも活かしながら残り少しの部活動を仲間と楽しみながら頑張っていきたいと思います。

保護者 豊間根道子

「部活、太鼓部に入部したよ」と一言。それから部活への送迎がスタートしました。頑張っている娘達、家で練習している姿を見て、応援していました。大会・イベント参加と忙しく活動しました。今年、高文祭で全国大会まで出場することができました。

顧問の先生方、指導者のみなさま、そして朝早く、夜遅くでも送迎をして下さった保護者のみなさまのおかげで成長してきたと思います。宮水太鼓部の追っかけになつて3年、とても楽しかったです。これからもつと成長し、活躍することを願っています。

「継続は力なり」

全国大会
団体表彰

花巻農業高等学校 PTA会長

高橋 康喜



謝申し上げます。

この度は全国表彰をいただくことができました。これもひとえに諸先輩方のおかげと感謝申し上げます。

花巻農業高校PTAは、生徒と共に地域に根差した活動を行っています。その一つ、花いっぱい運動は、生徒、先生方、PTA会員と一緒にプランターに花苗を植えつけ、市内の公共交通機関や公共施設などに設置し、地域を花で彩っています。毎年楽しみにして下さる地域の方々も多く、PTAとしても自慢できる活動です。

また、生徒が生産した農産物や加工品の販売が人気の花農祭ですが、PTAも頑張っています。母親委員会が中心になつての喫茶や役員が中心になつての模擬店は生徒にも来場者にも大変好評をいただいています。昨年はコロナ対策について緩和され、一般公開での喫茶店を開き、手作りクレープ100個が即完売するほど大盛況でした。

さらに、あいさつ運動では声かけを通して生徒とコミュニケーションをとり、PTA研修旅行では会員同士の親睦を深め、情報交換の場となっています。これらの地道な活動の積み重ねが、地域に愛される花農を築き上げています。今の活動が未来の花に繋がるよう、これからも我々PTAは生徒達に寄り添い、共に歩んでいきたいと思ひます。

水農らしさPTAとして

全国大会
団体表彰

水沢農業高等学校 PTA会長

高橋 辰幸



業高校PTAは全国大会会長表彰団体として表彰されました。

昨年までのコロナ過の中で、出来る活動を色々模索し積極的に行ってきた結果が評価されたのだと感じております。そして、歴代のPTA会長を初め会員

の皆様のご協力と感謝を申し上げたいと思ひます。本校PTAは、水沢農業高校ならではのと言えるような活動を色々行ってきました。

これからも我が校らしい活動を模索しPTA役員や先生方だけではなく、誰もが気軽に参加できるようなアウトホームなPTA活動になるよう色々考え、愛する水農の生徒たちの役に立てるような活動にしていきたいと思ひます。

将来、子供たちの思い出に残るような楽しい高校生活の一部となれるようこれからも頑張りたいと思ひます。

第73回東北地区高P連山形大会

7月4日(木)～5日(金)

ホテルメトロポリタン山形・やまぎん県民ホール

見つめよう、HOME

世界へはばたく子どもたちへ

岩手県からは197人、東北六県で1293人が集うこの大会は、山形北高校の生徒による「山形県民の歌」で開幕した。開会式では、広報紙コンクール最優秀校として盛岡北高校が代表受領し、青森県高P連の葛西孝之前会長が全ての受賞者を代表しお礼の言葉を述べた。岩手県からは岩谷堂高校の小山静会長による「持続可能なPTA活動を模索して子ども達との体験学習から強くなった」と題する発表があった。母親委員会は、コロナ禍にあっても、できる限りの活動により保護者の元氣回復を図った。更に、令和5年「5類」に移行したことを受け、研修委員会とタイアップし、生徒や先生方も巻き込んだ活動を行い、令和6年度か

らは統合することにより、活動の持続を目指している。午後は「Designing the NEXT Japan」と題し、株式会社 next is east 代表のフンジョット・ペディ氏による講演を聞いた。自分自身のOnoコを知り、好奇心を持ち観察すること、考え続けること、五感を生かして気づき、それを人と分かち合うこと、「共感」し「価値観」として高めていくことの重要性を説いた。人は「何を」ではなく、「何故」で心が動く。どのような社会にしていきたいかは、自分自身の行動・行動にかかっていると考えさせられた。



また、山形東高校マンドリン部の演奏は保護者世代の懐かしい気持ち呼び起こし、天童高校のダンス部は未来を予感させるものであった。次期開催地は仙台市。「むすび丸」も登場し、山形大会は閉幕した。

第73回全国高P連大会茨城大会

8月22日(木)～23日(金)

アダストリアアミとアリーナ(水戸市) 他

「歴史の町で変革を!!」

新たな時代が目に入らぬか

明治維新に大きな影響を与えた水戸学。その水戸の地に全国から5,500人が集った。予測困難で新たな時代に向かって進むべく灯を見出した大会だった。

大会1日目は5つの分科会場で講演やグループ討議がおこなわれた。

大会2日目の全体会では各表彰が行われ、全国高P連の田名部会長(青森県高P連元会長)はPTAに関してネガティブな風潮を払拭し一緒に学んでまいりましょう、と語った。

記念講演では「人材育成の不易流行」と題する二所ノ関寛氏(第72代横綱・稀勢の里)のお話を聞いた。二所ノ関氏は現役引退後に大学院



▲川上会長

で学んだという。科学的な裏付けをもとに食事や休養を設定し、その一方で、丹田と呼吸を意識し身体を中心軸を捉える「伝統的武道」の稽古をしつかりと守っている。また、自分自身で考え、意見を持つこと(理念)の大切さを伝えていく。2010年の白鵬64連勝を止めた時の取組前、「勝つてもガッツポーズするな」と親方から告げられたという。二所ノ関氏にとっても印象的なエピソードであった。「変わることもつて続いていく」...これはまさにPTAにとっても重要な課題であるといえよう。

来年2025三重大大会は「出会いはいま常若のくに」常に新しく本質を継承していこうというテーマと、本大会で伝えられた「温故知新」「不易流行」の概念とが繋がっている。今年もまた、素晴らしい大会だった。

感謝

盛岡商業高等学校 PTA前会長

小綿真理子



昨年度、健全育成委員会の委員長を務めさせていただき、盛岡商業高校前PTA会長の小綿真理子です。

この度は東北地区高P連会長表彰感謝状をいただきありがとうございます。

一年間、関わっていただいた皆さまには大変お世話になりました。

PTA会長という役職ですが、委員長という大役も努めなければならない当たり年です。

東北大会 感謝状

当初はとても不安で憂鬱な気持ちでスタートしたのを覚えております(笑)

ですが、活動していくうちに他の委員の皆さまや先生方との交流は毎回とても刺激があり、PTA活動の意味を自分なりに理解もでき、とても楽しく活動できました。

PTA活動というものは厄介に思われる方も多いですが、私は今回の活動を通してか出会えない方もたくさんいて、行けなかった場所もあつて、聞けなかったお話もあつて、とても良い経験になりました。私的には結果オーライやつめて良かったなと感じています。

一年間の活動を支えていただいたすべての人に感謝しています！
ありがとうございます！

東北大会 個人表彰

オヤジの背中

大東高等学校 PTA前会長

伊藤 玉男



今年度東北地区会長表彰を頂戴致しました。

正直「なぜ？」は「？」の疑問を否めなところではあります。私が、有難く頂戴致しました。

私が住む大東は県南一関市に属し、悩める中学生が高校進学を考える際、その選択肢は比較的多い地域であります。私は子どもが五人おりますが、歩いてでも通える地元小学校が良いと皆大東高校へ入学し、各々短大・四大へと進学しました。地元の小中学校でPTA会長をしていた私はその流れのまま子どもの入学と同時に高校でも役員となり十年余り携わり二期の会長職に就くことができました。

大東高校は小高い丘にあり、約三百メートルを歩き八十メートルをのぼる「乙女坂」と称する坂を登下校します。その坂道では生徒全員が誰に対しても必ず立ち止まって会釈をします。この「大東ブランド」は素直な生徒達が、屈託のない笑顔、端正な服装で一人一人元気に挨拶することを心掛けていて周囲からも高い評価を得ています。

退会した今私自身母校である高校の会長職までさせて頂けたことは名誉なことであり、関わって下さった教職員・保護者・地域の皆様から感謝しているところです。

「お父さん楽しそう」活動している私を見て子どもがよく言いました。大人になるのも悪くない、そんな風に私の背中を眺めてくれたなら自分の役割も果たせた気がしています。結びに、各PTA活動の益々のご発展を心よりご祈念申し上げ受賞の挨拶と致します。

持続可能なPTA活動を模索して

岩谷堂高等学校 PTA会長

小山 静



去る7月4日、5日の2日間「見つけよう・HOMES」世界へはばたく子どもたちへ」

のテーマの元、山形県山形市で第73回東北地区高等学校PTA連合会山形大会が「やまぎんホール」で開催されました。

今回、当校が発表校になっており岩手県の代表として東北各校の皆様の前で研究協議テーマ「未来を生きる子どもたちを育むために 家庭・地域・学校の

東北大会 発表

連携の在り方」のもとに、当校は「持続可能なPTA活動を模索して」子ども達との体験活動から強くした想いを表題にして、卒業生への贈り物である親と先生によるコサージュ作りについてお話をさせていただきました。この時に作成したコサージュを胸につけて発表致しました。

広いまぶしい会場での発表は8分間という制限時間の中、他の皆様の発表を聴きつつ、緊張しながらも当校の活動を皆様に伝えることが出来たのではないかと思います。今回はこのような発表の場にたたせていただきありがとうございました。

受賞おめでとうございます

- ☆令和6年度優良PTA文部科学大臣表彰
花泉高等学校PTA
- ☆令和6年度岩手県教育表彰
盛岡北高等学校PTA
- ☆令和6年度全国高P連会長表彰(茨城大会表彰)
〈団体表彰〉
花巻農業高等学校PTA
水沢農業高等学校PTA
- ☆令和6年度東北地区高P連会長表彰(山形大会表彰)
〈感謝状〉
盛岡商業高校 小綿真理子
花巻農業高校 志田藤ひとみ
千厩高校 千葉栄生
- 〈表彰状〉
宮古北高校 飯塚亜季
久慈工業高校 蒲野隆
遠野緑峰高校 小林立栄
大東高校 伊藤玉男
- ☆令和5年度東北地区広報紙コンクール
◇最優秀賞 盛岡北高校 MORIKITA第4号
◇優秀賞 大船渡高校 さかみち第105号
◇優良賞 黒沢尻北高校 黒陵vol.144

つなげよう みんなの心 未来を担う子どもたちの幸せを願い今できること

第1回保護者つながる交流会

令和6年9月25日(水) 会場/サンセール盛岡



▲ディスカッションの様子

ケートを紹介。最も多かったのは「子どもとの会話が少ない」で、次いで「子どもが考えていることがわからない」、「将来についてあまり話せていない」などが挙げられ、大きく頷く参加者の姿もありました。

続いて吉田氏は、主題であるペップトークについて解説しました。ペップトークとはアメリカ発祥で、試合で選手のパフォーマンスを引き出すべく、コーチや監督がかかる言葉のこと。昨年開かれたWBCでは、大谷選手が「憧れるのをやめましょう」とスピーチして話題になりました。

こうした言葉がけは心理学や脳科学の面でも裏付けが取れているそうで、周囲からの期待によって良い成果を出す傾向が高い「ピグマリオン効果」や、その反対の「ゴールレム効果」などについても解説。さらに前向きな言葉を活用するためのコツとして、物事をポジティブに変換することや、今できている点に注目することとしてほしい内容を素直な言葉にして伝えることが大切だと説明しました。吉田氏は「前向きな言葉がけのためには、自分自身の心を満たすことが重要です。ぜひお子さんだけでなく、自分自身にも前向きな言葉がけをかけていただきたいです」と語りました。

休憩を挟んで行われた活動発表では、久慈東高校の三角真由氏が登壇。来年4月から久慈工業高校との統合が決定している同校PTAの活動を紹介したほか、2022年に東高祭PTAバザーが3年ぶりに復活したことや、今年は5年ぶりにPTA総会を土曜日に開催したことなどが伝えられました。

その後はフリートークタイムを設け、テーブルごとにPTA活動における現状や課題の共有などを行いました。どのテーブルも真剣に話し合ったり、ときには笑顔がこぼれたり盛り上がりつつあった様子。全体協議では「円卓にしたことでアットホームな雰囲気になり話しやすかった」「お互いに名札をつけるなどして、学

校名や規模などがわかるとより会話が深まるのではないか」という意見が出されました。

閉会式では、川上会長が「ペップトークは、とても腑に落ちる内容でした。また、久慈東高校の活動発表では、PTAバザーや登校時一声運動などの際、全てのPTA会員に声かけをする点がとても良いことだと感じました」と挨拶。秋田



▲阿部一也健全育成委員会委員長



▲来賓挨拶 岩手県教育委員会生涯学習文化財課総括課長 小澤剛幸氏



▲講演 吉田浩規氏



▲講演の中でオーリングテストを実施



▲活動発表 久慈東高校

優良PTA文科大臣表彰(団体)を受けて

優良PTA
文科科学大臣表彰

花泉高等学校PTA会長 佐藤 賢



この度、花泉高等学校PTAは第73回全国高等学校PTA連合会茨城大会で輝かしい賞を頂くことが出来ました。これもひとえに今まで活動して頂いたPTA役員、会員の先輩方、支えてくださった教職員の皆様の活動の賜物であります。ご支援を頂きました全ての方々へ感謝と御礼を申し上げます。

さて、本校PTA活動ですが、全会員で行う主な事業としては、春と秋に行うPTA登校指導(声かけ運動)、7月の環境整備活動、花高祭への参加協力となっております。PTA登校指導では、会員の負担を減らしながらも6日間のうち1日は参加をお願いして生徒達への挨拶と声掛けを昇降口前に立って行いました。普段見る事がない登校時の様子を見る事

が出来た事、また、会員同士のコミュニケーションを図る良い機会になっていと感じています。環境整備活動では健全育成委員会を中心にプランターへの花植えを行いました。暑い時期での実施でしたが、参加者で協力し合いながら作業する姿を見てとても頼もしく、また充実した時間を過ごすことができました。

本校は全校生徒数が少ない小規模校でPTA会員も少ない中での活動になりますが、「出来る範囲で協力し合うPTA活動」をこれからも学校、地域の方々と連携しながら継続して取り組んで参ります。



▲声掛け運動



▲環境整備活動



▲環境整備活動

第34回会長研修会

令和6年10月18日(金)

会場/ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING



▲研究協議Ⅰ 不來方高校
川又留美子PTA会長



▲研究協議Ⅰ 高田高校
中野貴徳PTA会長



▲来賓 盛岡第二高校
菊池省治校長

岩手県高P連第34回会長研修会は、10月18日にホテルメトロポリタン盛岡NEW WINGにて行われました。各校から48名のPTA会長や副会長が出席したほか、来賓として岩手県立盛岡第二高校の菊池省治校長が臨席。川上博基県高P連会長は、開会の挨拶で「コロナ禍を経て、過去の学校行事がわからず苦労する面が多いと思います。他校の活動を参考にしたいです」と述べました。

研究協議Ⅰでは、高田高校の中野貴徳PTA会長が「我が母校 高田高校」と題して、同校が行っている「T×AC TION」やPTA活動について解説。

「活動を通して、子どもたちや学校、保護者、地域、行政などが連携することの重要性を改めて実感しました」と語りました。

続いて、不來方高校の川又留美子PTA会長が「復活してみらいへ」PTA活動の継承と発展をテーマに発表。同校では学園祭で母親委員会が主体となり、「おふくろの味」として炊き込みご飯と餃子を手作りするのが伝統です。コロナ禍で一時中断していましたが、令和5年度に復活。役員は未経験者ばかりでしたが、OGの力を借りて乗り切ることができたそうです。同校は令和7年4月に盛岡南高校との統合が決まっており、川又会長は「両校の伝統を受け継ぎ、未来へ発展させることが今後の課題です」と語りました。

その後の講演会では、内館茂盛岡市長が登壇。「より優しく、より強い盛岡を目指して」という演題で、市長になるまでの経緯や今後のビジョンについて力強く語りました。「より優しく、誰ひとり取り残さないまちへ」、そして「より強い、地元経済が元気なまちへ」。そうした盛岡の未来を実現するために、子どもたちや教育現場へのサポートにも力を入れていく方針です。

講演後は、参加者から人口減少対策や子どもたちに街の魅力を伝える場を増やしてほしいという声が挙がりました。内館市長は、「岩手県全体と連携して、物質的にも精神的にも豊かさを感じる幸せな街をつくるのが今後の課題です。また、子どもたちに街の魅力を知らせてもらうことも大切。ぜひ皆さんもご自身の経験を語り、子どもたちの視野を広げていただきたいと思います」と述べました。

研修会の最後には、研究協議Ⅱとして情報交換を実施。令和6年度特別助成

費の申請状況について報告があったほか、来年度から定員が倍になる西和賀高校から簡単な事例発表も行われました。同校は以前から西和賀町と協力して、県外の生徒を受け入れる「いわて留学」に力を入れてきました。その取り組みが実を結び、今年度は40名の定員に対して44名が入学。来年度も志願者が増えることが予想されるため、学級数を増やす方針となりました。人口減少が進む中での学級数増は異例のことであり、事務局から「ぜひ各校の取り組みの参考にしてください」と伝えられ閉会となりました。



▲講演会 内館茂盛岡市長



▲研究協議Ⅰ 質疑応答

岩手県教育表彰を受けて

盛岡北高等学校PTA会長
石戸 満



この度は栄えある岩手県教育表彰を頂くこととなり、大変うれしく思います。これまで本校のPTA活動にご協力頂いた保護者の皆様をはじめ教職員の皆様、これまでの活動を支えて頂いた先輩方、地域の皆様、同窓生の皆様のお陰です。感謝申し上げます。

さて、本校は創立50周年を迎えました。記念交流試合や記念定期演奏会が盛大に開催され、生徒を中心に50周年ならではの特別な活動を楽しんでいます。また、10月には記念式典・祝賀会も盛大に開催されました。

ここ数年、本PTAでは「家庭和熟」をテーマに掲げ活動しています。校訓「師弟和熟」と両輪を成すこの言葉は、PTA活動をする上での大きな支えとなっており、今年度も家庭和熟を合言葉にPTA情報誌の発行、一声運動、言葉の花道企画などのPTA活動を進めています。盛北祭では、元気に活動する生徒や文化祭を楽しむ保護者を迎えるながら、お餅のお振る舞いもしました。

これからも無理のない皆が参加しやすいPTA活動を心掛け、皆のウェルビーイングの向上を目指し、力を合わせながら活動していきます。この度はありがとうございます。



▲盛北祭 PTA企画 言葉の花道

▲もち振る舞いのもち

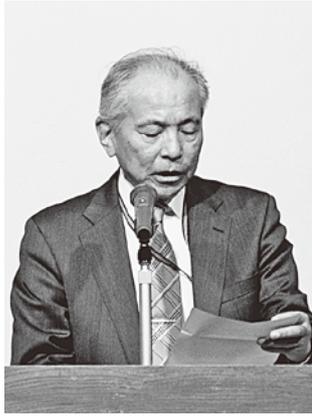
▲50周年記念定期演奏会

▲50周年記念交流試合

▲PTA白だるま

第54回 事務局長研修会

令和6年11月11日(月)
会場／サンセール盛岡



▲会長挨拶(事務局代読)

第54回事務局長研修会が、11月11日にサンセール盛岡で開かれました。64校が参加し、来年度の行事予定や加入PTA会員数などについて確認。令和7年度の県高P連定期総会は6月4日にサンセール盛岡で行われるほか、東北地区大会は7月1日～2日に仙台市にて、全国大会は8月21日～22日に三重県津市での開催が決定しています。なお今年度のPTA加盟校数は79校ですが、来年度は不来方高校と盛岡南高校が統合して南昌みらい高校へ、久慈東高校と久慈工業高校が統合して久慈翔北高校となるため、合計77校になる予定です。

研修会の後半では、事前アンケートによる議題を協議しました。各校における母親委員会の名称変更や、登校時一声運動の参加者確保に関するなどを情報共有。他校や県外の傾向も含めて、事務局より現状の説明がありました。

またPTAの理事や事務局の担当について、主に小規模校より「担当頻度が多く負担が大きい」との声が上がっています。研修会の終盤に行われた地区ごとの打ち合わせでは、ローテーションの調整や合区も視野に入れて今後の方針を検討。閉会行事は行わず、打ち合わせが終了した地区から順次解散となりました。



▲情報交換



▲地区ごとの打ち合わせ

『岩手県教職員働き方改革プラン(2024～2026)』を策定

岩手県教育委員会では、県内学校全体の働き方改革の実現を目指して、「岩手県教職員働き方改革プラン(2024～2026)」を策定しました。

プラン策定の趣旨は、「教職員のこれまでの働き方を見直し、長時間勤務の是正を図ることで教職員の健康を守ることもとより、日々の生活の質や教職員人生を豊かにするなど教職員のウェルビーイング(※)を確保するとともに、自らの人間性や創造性を高め、子どもたちの理解に努めながら、より良い教育を行うことができるようにしていくこと」であり、このことが、岩手の未来を担う大切な子どもたちに、質の高い教育を持続的に提供することにつながります。

(※) ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものをいいます。

こうした働き方改革を実現していくために、本プランとしては次の目標を掲げています。

- 1 教員の時間外在校等時間の縮減
 - (1) 時間外在校等時間が月80時間以上の者をゼロにする。
 - (2) 時間外在校等時間(週休日等の部活動指導従事時間を含む)が月45時間超、年360時間超の者を段階的に縮減する。
- 2 業務への充実感や健康面での安心感の向上、教職員のウェルビーイングの確保を目指す

これらの目標を達成していくためには、「部活動関係団体、PTA、同窓会等の業務に係る役割分担」を進め、教員が担う業務の明確化・適正化を図っていくことや、「留守番電話等による時間外対応」など、地域や保護者の方々からのご理解・ご協力をいただきながら取組を進めていく必要があります。

詳細については、岩手県のホームページにおいて「岩手県教職員働き方改革プラン(2024～2026)」と検索してください。

第28回

がんばる岩手

久慈東高等学校PTA会長 久保 繁明



21年の歴史に感謝
そして次の未来へ

令和2年度、3年度と副会長を務めさせていただき、令和4年度から久慈東高等学校PTA会長を務めさせていただいております。久保繁明と申します。

久慈東高校は、令和5年度に20年目を迎え、今年度記念式典を行いました。

私が校は、久慈秋まつりへ流し踊りで参加する生徒への浴衣の提供や着付けの協力、登校時一声運動、PTAバザーなどたくさんの会員の皆様の協力を得ています。

令和4年からは会員全員へのアンケートを実施し、コロナ後のPTAの在り方、今後の活動のこと、PTAへの要望等を伺い、今後に生かすこととしております。学校、生徒、保護者、地域のつながりをさらに強め、新設校になっても活動していかなければならないと考えます。この久慈東高等学校の21年間に関わったすべての皆様に感謝をしつつ、次の未来に向けて、新たなスタートが切れるよう活動していきたいと思っております。



▲東高祭でのPTAバザー(10月)

▲全会員に協力を呼びかけて実施

▲久慈秋まつり2年生参加、ドリンク提供

▲登校時一声運動・マナーアップ運動(10月)

▲R6は雨天のためパレード中止 ※写真は全てR5のものです

岩手県高P連委員会活動報告



健全育成委員長
阿部 一也
(遠野緑峰高等学校)

第1回保護者つながる 交流会を開催

健全育成委員会は、6月12日に福島市で開催された東北地区の総会・委員会を受け、6月19日にサンセール盛岡にて第1回委員会を開催しました。活動の核となっている「登校時一声運動・マナーアップ運動」の継続の他、自転車運転時のヘルメット着用定着と、保険加入促進に関する取り組みについて検討しました。

各校におかれましては、登校時一声運動の実施報告と自転車保険加入・ヘルメット

着用状況に関する調査報告にご協力をいただき、ありがとうございます。子どもたちの安全を守るための校外活動指導と、交通安全指導に役立ててまいりたいと思いますので、今後ともご理解のほどよろしくお願いたします。

さて、今年度から母親委員会と健全育成委員会の活動を統合し、9月25日には、「第1回保護者つながる交流会」を開催しました。これまでの母親会員交流会のスローガンである「つなげようみんなの心」と「未来を担う子どもたちの幸せを願い、今できること」というテーマを継承し、研修と会員相互の交流を深めることができました。単P母親委員会の有無や性別に関わらず参加できますので、次年度以降も多くの皆様に参加していただければと思います。



進路対策委員長
小山 静
(岩谷堂高等学校)

今私達にできる事

本年度進路対策委員会の委員長をさせていただきます。岩谷堂高校PTA会長の小山静です。

進路対策委員会の活動としては、本年度東北地区高P連の会議が岩手県が果たしていることから、9月6日にメトロポリタン盛岡NEW WINGにて行われました。

岩手県商工労働観光部 定住推進・雇用労働室の小野寺こずえ様にお越し頂き、「いわてで働こう推進協議会」のとりくみ

についてお話を伺い、その後東北地区各県代表の進路対策委員長・事務局長からそれぞれの県内の就職状況等のお話を伺いました。

各県から出たお話で印象的だったのは、首都圏への流出がとまらないという事です。進学後、そのまま就職してしまうパターンが多いようで、都会だと思っている宮城県でさえ、首都圏への流出が止まらないようです。

Iターン・Uターン・Jターン等ありますが、首都圏にない岩手の魅力をどう伝えていくべきか考えさせていただく良い機会になりました。

今回は、県の進路対策委員会と東北の進路対策委員会が合同で行われるので、地の良さを更に伝える方法などについて協議出来れば良いと考えております。



調査広報委員長
大坂 英人
(大船渡東高等学校)

伝えていきたい広報紙に

今年度の活動は、6月12日(水)福島市での東北地区高等学校PTA連合会第一回調査広報委員会に始まりました。各県の調査広報委員会代表の方々と本年度の広報紙に関する話し合いをしました。

それを受けて、6月19日(水)にサンセール盛岡において岩手県高等学校PTA連合会第一回調査広報委員会が開かれました。前年度の引継ぎを受けながら今年度の取り組みについて活発な意見交換が行わ

れました。「ポロニア」の内容についても話し合われました。

さらに9月6日(金)青森市で開催された東北地区高等学校PTA連合会第二回調査広報委員会では、広報紙コンクールの審査について審査員の共通理解を諮りました。審査をスムーズに行う目的で事前にも前年度広報紙を用いて模擬審査を実施しました。その結果をもとに意見交換会が行われました。

今年度の岩手県高等学校PTA連合会PTA広報紙コンクールも多くの学校のご応募いただいております。各校のPTAの特色を生かした取り組みを期待しております。盛岡北高校が二年連続で、県及び東北で最優秀賞となりました。さらに最優秀賞が取れるような広報紙が出てくることを楽しみにしております。各校の皆様も自分の学校を紹介してみてください。

岩手県学生会館入寮生募集

～初めての東京生活を支える安心の寮生活～

【会館施設概要】

- 所在地 〒171-0043 東京都豊島区要町 2-5-5
JR池袋駅まで徒歩15分、東京メトロ有明駅徒歩5分
- 資格 岩手県出身者で大学院、大学、短期大学、専門学校等に通学する人
- 寮費 (令和7年4月1日より改定)
月額90,500円(朝夕2食・自治会費含む)
入寮時諸経費 入寮金 60,000円
寮維持資金 60,000円
- 室内 洋室13.5㎡(全室個室)
- 設備 机、本棚、ベッド、クローゼット、洗面化粧台、冷暖房器等

【申し込み・問い合わせ】

公益財団法人 岩手県学生援護会
(岩手県学生会館内)
TEL: 03-3972-4783
※募集要項、申込書類はホームページから
<http://www.gakuseikaikan-iwate.or.jp/>



「誠実、一生懸命」

岩手県立盛岡峰南高等支援学校
PTA会長

石村 宏



本校は平成10年に開校された高等支援学校です。本校の特色は卒業後の進路を念頭に置いた教育課程です。4つの科を柱とし、卒業後の進路に向け、生徒たちは日々の学習に取り組んでいます。

その生徒の応援団であるのが本校のPTAです。広報、事業、研修など一般的な組織編制ですが、本校のPTAの特色は岩手県広域を数ブロックに分けた地区の活動です。本校は岩手県広域から生徒が集まっており、盛岡市から離れた所に自宅がある生徒は、寄宿舎を利用しています。地区のPTA活動は主に夏休みなどを利用して、地元企業に就職した卒業生の職場見学をします。この活動は数年後の進路についてイメージを持っていない生徒にとって良い学習となり、保護者にとっても我が子の未来を考える良い機会となります。そして、見学先の卒業生の仕事の姿勢も生徒だけでなく保護者も勉強になるほど誠実な仕事ぶりです。昨年、本校の「卒業生と語る会」の



▲PTA奉仕活動の様子



▲PTA研修会の様子



▲地域ごとの職場見学

不來方魂を誇りに思う

岩手県立不來方高等学校
PTA会長

川又 留美子



不來方高等学校は、昭和63年4月に矢巾町に開校した芸術・人文・理数・外国語・体育の5つの学系それぞれに応じた専門の教育を実践する、県内唯一の学校です。校訓に「自由・創造・飛翔」を掲げ、子供達は日々、勉学、スポーツに一生懸命動かし続けています。

本校のPTAは、今年度は県高P連の専門委員会に合わせ、健全育成委員会と母親委員会を統合し、4つの委員会にいたしました。しかし、完全に母親委員会の活動を無くすことは出来ないため、健全委員会の中に「健全育成部門」と「母親委員部門」を設ける形を取りました。このことにより、混乱なく、従来の活動を行うことが出来ています。

さて、不來方高等学校PTAは今年度が最後となりました。研修旅行、保護者進路説明会、広報発行そして、翔鶴祭（文化祭）における恒例のおふくろの味を伝える「餃子」と「炊き込みご飯」作り。不來方高等学校PTA伝統の行事を最後の思いを込めてこなしております。



▲文化講演会



▲研修旅行



▲翔鶴祭

▲餃子・炊き込みご飯

数々の活動に思い出があり、笑顔あり、感慨深いものがあります。不來方の名がなくなる寂しさは親も先生方も感じていますが、不來方の伝統は無くなるものではないと信じて、私達PTAができることを着実に成し遂げ、「南昌みらい高等学校」へ引き継ぎ、2校の統合がより良いものになるように願って活動しています。

見学に参加しましたが、卒業生が社会人として自分を堂々と語る姿に感心しました。生徒が憧れの眼差しで卒業生へ質問する姿も親としてうれしく感じました。

盛岡峰南高等支援学校の生徒は誠実な社会人になるべく、日々の学習に一生懸命に取り組んでいます。私たちPTAはそんな生徒の応援団としてこれからも活動していきたいです。

編集後記

日頃より会員の皆様には、岩手県高等学校PTA連台会の広報活動にご理解ご協力をお願いがとうございます。

今年度もあと四か月にすぎました。我が一人息子が仲間たちと過ごすタイムリミットが近づいてきます。親という字は「木」と「立」と「見」で出来ています。これは、小鳥が巣立つ時に親鳥は少し離れた枝から「大丈夫がんばりなさい」「あつちの枝に行きなさい」とエールを掛けて見守る様子が描かれたものです。

ここに親のあるべき姿があります。私は見ている事が出来ず、何回言っても聞かない息子に対して、とうとう一人でやってみよう、気が付けば十八歳になりました。これからも一人でやってみなければならぬ息子、心配性の私はいつまでも子離れ出来ない息子は自分の所有物ではないとわかっていても、「さちんとしなさい。やりなさい。」と息子が悪く言われないように口うるさくなっていました。

これから自立していく息子に、「信じているよ、やれるよ、出来るよ」と背中を押して出会った人たちに感謝をし、これから出会う人に恵まれますよう願って止みません。

最後になりましたが、今回の発行にあたりご多用の中、ご協力いただきました皆様には厚くお礼申し上げます。人ひとり調査広報委員会も、PTA会員の皆様一人ひとりを一つなく広報できるように誌面作りに尽力してまいります。本会報が岩手県高等学校PTA連台会の会報として県内のPTA会員のつながりと今後様々な情報発信になれば幸いと思っております。今後ともよろしく願っています。

（調査広報委員長・大坂英人）

〈編集委員〉調査広報委員会

- 委員長 大坂 英人（大船渡東高校）
- 副委員長 中野 貴徳（高田高校）
- 委員 佐藤 清一（杜陵高校）
- 千葉 栄澄（千厩高校）
- 田澤 真澄（葛巻高校）

◇事務局

- 山根 勝（大船渡東高校）
- 佐藤 尚（県高P連）
- 木村 智子（県高P連）